

## さあ、行きなさい

教団代表 内山 勝



「さあ、行きなさい。いいですか。わたしがあなたがたを遣わすのは、狼の中に子羊を送り出すようなものです。」（ルカ一〇：3）

第74次年会を恵みの裡に越えることが許されました。皆さまのお祈りとご協力に心より感謝します。牧師たちは共々刷新されて、それぞれの任地で新しい年度の奉仕を開始しました。これからの1年間、どうぞよろしくお願い申し上げます。

特に転任・新任の牧師たちと諸教会に、主の格別な助けと導きがありますよう祈りましょう。

冒頭に、イエスさまが七十二人の弟子たちを派遣された時のみことばを引用しました。イエスさまが派遣された神の働きの人とはどんな人たちだったのでしょう。無力な人々です。

イエスさまは、狼の中に送り出される子羊のようだと、表現されました。狼とはサタンのごとくでしょう。イエスさまが遣わされる人だから、さぞかし強いのだろうと思いきや、サタンに対して驚くほど無力なのです。これが事実です。皆さまの教会に派遣されている牧師は、決して強くはありません。サタンの攻撃に晒されたらひとたまりもないような弱い器だということを決して忘れないでください。サタンを甘く見てもなりません。サタンはいつも、あなたの教会の牧師を落とそうと企んでいる強敵なのです。

■無防備のまま出て行く人々です

ところがイエスさまは、彼らの無力さをご存知の上で、あえて彼らを遣わされました。しかも、無防備のままで行くようにと勧められました。財布も、袋も、履き物も、余分なものは何一つ持たずに出かけなさいと言われた真意は、人の側でどんなに装備したところでサタンに対抗などできないのだから、いっそのこと何も持たない丸腰の状態で行くことによって、全く主に寄り頼む者となりなさいということなのでしょう。ただ一人、主イエスさまだけが、どんなサタンの攻撃からも守ってくださるお方なのです。それを信じて出て行くかどうか、牧師に問われているのです。

■「平安の子」たちに支えられる人々です

イエスさまは、「どの家に入っても、まず、『この家に平安があるように』と言いなさい。そこに平安の子がいたら、あなたがたの平安は、その人の上にとどまります。」（5、6節）と約束されました。「平安の子」とは、牧師を愛して福音宣教の働きを共に担い、物心両面にわたって牧師を支える信徒のことでしょう。主が備えてくださる「平安の子」たちのゆえに、牧師と教会は、サタンに打ち勝って進むことができます。牧師は信徒のために平安を祈り、仕え、信徒は受けた主の恵みに感謝して牧師を支えます。この共存関係こそ、イエスさまのサタンに打ち勝つ戦略でした。

牧師と信徒の協働を、主が益々祝福して前進させてくださいますように。

### 目次

さあ、行きなさい……内山勝……1
第74次年会報告、神学院卒業式……2
聖会I説教要旨、年会研修会報告……3
海外トピックス、国内教会局、燭台……4
JHA 聖化フォーラム、青年課、中高生課……5
広げた翼……6～8
聖宣神学院報……9～11
公報、消息……12

## 第74次年会報告

## 総会から一年が経過し

## 喜び溢れる教会づくり

## 協働の深化を願い、

富士見台教会 野田 禎

3月5日～7日に、国立女性教育会館、ヌエックにおいて74次年会が行われました。

開会の礼拝では、福音讚美240番「ほめたたえよ、力強き主を」が力強く讚美され、代表の内山勝先生より詩篇一〇三・1～5より、①主に憩い、②主の恵みに感謝し、③刷新されるようにと語られました。

議事会Ⅰの小礼拝では河村從彦師から民数記一四・8から夢を描くこと、その意味を考えること、行き詰まりは信仰の飛躍の機会になることが語られました。

議事会では、昨年度の報告があり、神様の御守りと導きを感謝しました。今年年度で2名の先生方が引退され、神学院では2名の卒業生(内1名はイムマヌエル)でした。神学院の入学審査において2名の方が入学され(内1名はイムマヌエル)だという報告がありました。信徒伝道者としては昨年



4名の方が学ばれ、3名が信徒伝道者になられ、1名の方も学びを継続中とのこと。神様は牧師を立て、信徒に賜物を与えられ、牧師と信徒が共労して、救霊、教会建上げる恵みを与えて下さることを、報告を通して知ることができました。

6日午前の研修会では、「伝道について」と「高齢化について」の二つのテーマが取り上げられました。内容豊かな、また心が希望で燃える研修がありました。

一つは宣教部会の内山忠信先生、田辺寿雄先生から「伝道・教会活性化アンケート」の集計報告がなされ、また「宣教研究委員会からの提言」として、具体的な示唆が示されました。各教会が総合的に地域に根ざし、人々との関係を築き、必要に即した様々な工夫が紹介され、伝道のビジョンと重荷の共有、魅力ある礼拝作りなどにつ

いて語られ、私たちの教会にも応用が可能なかも知れないと希望を与えられ感謝でした。

もう一つの研修は、厚生委員会の里村佳子姉(呉教員)より「認知症の基本的理解と関わり方」について、興味深い講演がありました。なんと4人に1人が認知症になるという中、3つの認知症の症例が紹介され、それぞれどう接することが有効であるかも知られました。神様の愛と全人格で接する大切さを考えさせられました。早速、学んだことを生かしたいと思

います。

議事会Ⅱの小礼拝では葛田崇志先生から、マルコ八・31～35より二つの十字架、背負う十字架と、仰ぐ十字架についてお勧めがあり、心が燃やされました。

代表報告の中では、今年度の方

向性が語られました。(1)喜び溢れる教会づくり、(2)教会間協力の推進、(3)牧師・信徒の協働態勢、(4)神学院70周年事業などについて方向性が示されました。また、各局長より新年度の計画が語られました。

聖会Ⅱでは、梅田登志枝先生が、エステル四・12～17より「使命を捉えた、捨て身の信仰」という題で、エステルが捨て身で同胞を救ったように、今の時代に選ばれている私たちが、イエス様の十字架に感謝し、福音を伝えようとお勧めがありました。

聖会Ⅲは、岩上祝仁先生から、ヨハネ二〇・19～23より、①主は誰を使わされたのか、②主がどのように遣わされたのか、③主の派遣の裏付けという点から、聖霊に励まされて、福音を伝えるお勧めがありました。

聖霊が群れ全体を励ましてくださり、按手式、任命式をもって年

聖宣神学院から……

## 第66期生2名の卒業式を挙行

3月1日(金)午後、ウエスレーチャペルを式場に、卒業式・終業礼拝を行うことが許されました。式では教団代表、同窓会長からお祝辞を、式後の感謝会では出身教会の先生方、後援会長からそれぞれ温かいはなむけのおこぼれをいただきました。

今年2名を送り出しました。金成星美姉(正規コース、東京フリースト校)、大谷のぞみ姉(正規コース、イムマヌエル板橋教会出身)のために、在学中のお祈りに増して、新しい任地で豊かに用いられるようにお祈りください。

第74次年会 聖会Ⅰ 説教要旨 説教者・内山勝代表

イザヤ書六章1〜8節

# 真の礼拝を取り戻そう

北田直人・記

▼牧師にはいろいろな危険がありますが、気づかないうちに真の礼拝を失うという危険があります。かつては前日から緊張し、十字架の話に涙が出そうになることがあったのに、今は淡々と語っている自分がいます。数をこなして行くうちに、礼拝することや説教することに馴れてしまうのです。

そんな私がイザヤ六章を読んだ時、強い衝撃を受けました。何度も礼拝してきたイザヤは、この時、圧倒的な神様のご臨在に触れたのです。私が彼のような経験をしたのはいつだったでしょうか。

衝撃的な神様体験がなくても礼拝説教を準備すること、プログラムを進めることは可能です。でも、



神様はそのような礼拝をとっても悲しんでおられるでしょう。神様とお会いできたかどうかで礼拝の価値が計られるのではなく、それ以外のことによって礼拝の良し悪しを評価しているなら、真の礼拝から遠ざかっているのです。ある人が真の礼拝を失うとどうなるかを挙げています。「①恐れに支配される——自身を恐れ、他人を恐れ、今の状況を恐れ、将来を恐れるようになる。②語るメッセージが平凡になる——神の基準を下げて自分の常識的な考えでメッセージを構成するようになる結果、会衆にとって恵まれないつまらない説教になってしまう。③自分を無感覚にしてしまう——ただ忙しく牧師の仕事をごなすことによって霊的に無感覚になり、忙しく働いていることで自分を満足させようとする。」もしこれらのどれかにあてはまるなら、真の礼拝を取り戻す必要があるのです。▼では、人がほんとうに神様とお会いするとうなるのか。

「ああ、私は滅んでしまう。この私は唇の汚れた者……」臨在に触れるということは恐ろしいことです。自分がいかに汚れているかが一目瞭然となってしまうからです。それで、人は神様に触れることから逃げ、他人と比べ、相対的な評価によって満足しようとしません。もし神様と直に触れたら、自分の汚れを感じ、自身を災いだと感じるのです。預言者の唇が汚れているのは致命的なことでした。これ以前、人に向かって災いだと言っている彼自身が、神様から見て災いであるということを知っていたいかなかったことは致命的です。真に神様と出会ったら、人は砕かれて謙虚になるのです。「ああ！災いだ！」と叫ぶような悔い改めをしたのはいつのことでしょうか。だとしたら、私は真の礼拝から遠ざかっているのではないのでしょうか。確かに、私に必要なのは神様に触れていただくことであり、その結果本当に神様の前に砕かれることではないのでしょうか。▼では、神と出会い、神の前に砕かれた人はどうなりますか。神様は砕かれた悔いたまましいを放置されることはありません。火が彼の口に触れると、きよくさしれ、神の前に立てる者とされまします。その時！神の声を聞いたのです。「だれを、わたしは遣わそう……」彼は「ここに私がおります。私を遣わしてください」と答えることができました。

神様との出合いが、真の悔い改めを生み、真の悔い改めが真の礼拝へと私を回復します。この恵みを必要と感じているなら、主の御もとに行こうではありませんか。

## 年会・研修会報告 年会参加者全員で学びました 今後の牧会に欠かせない 認知症の基本的理解 自らの課題として

厚生委員会 里村佳子



年会で「認知症の基本的理解と関わり方」についてお話ししました。今や65歳以上の4人に1人は認知症とその予備軍だと言われています。認知症は一般社会のみならず教会にも及んでいます。実際、牧師や信徒が認知症になって困っている話を良く耳にします。

牧師不足の現状では高齢になっても奉仕して欲しいですが、必ずといっていいほど認知症の問題が生じます。高齢になると誰でも認知症になる可能性は高くなるのです。

そのため、認知症を正しく理解することはとても大切なことで解することはとても大切なことと

1997年私は呉市のキリスト教会が協力して設立した社会福祉法人呉ハレルヤ会に故伊藤正泰牧師の勧めもあって参画しました。

福祉介護の経験や知識がなかった私は、高齢者のためにキリストの愛で仕えたいというミッション

だけで転職しました。当時は、認知症の人は社会の片隅で身を潜め、尊厳は不当に扱われ、虐待すれすれの不適切なケアが、公然と行われていたのです。私は多くの認知症の人と接し、理解して寄り添えば認知症は緩和されることを体験しました。

寄り添うということは、認知症の人を変えようとしなくて、介護の方が近づきありのままを受け入れることです。それは、イエスキリストの愛に通じています。

この仕事に就いて21年経ちますが、認知症の人から人生を学びました。それをまとめたものが、5月に岩波書店から『尊厳ある介護』として出版されます。

私は、この本を認知症で悩んでいる皆さんの福音となるよう祈りながら書きましたが、何より伝えたいのは、素人集団が施設を運営することで生じる試練で、涙も枯れた私に注がれた驚くべき神さまの愛と助けです。

国内教会局から

教会建設の務めに  
全力で伝道しよう!

第74次年会を越えてお互いに任地へと赴きました。多くの実を結ぶことが出来ますように祈り合いました。近況を分かち合い、意見を交わし、また聖言の養いを頂きました。今年も多くの語り掛けを頂きましたが、



改めて宣教への情熱を与えられた年会でした。宣教研究部会による発表もまた示唆に富むもので、これから各教会、教区で取り組むための材料を多く頂きました。研修会の締めくくりに第一コリント三・4、9が朗読されました。パウロが成長について繰り返して諭す場面です。何の成長について論じているのでしょうか。神

の神殿である教会です。神はキリストのからだである教会を育まれる。そのみわざの中で私たちは礼拝を献げ、伝道に勤しみ、互いに励まし合い、次の世代にたすきを託して参ります。教会の在り方について枠を定めるのは、私たちではなく育て給う神です。伝道の方策も然り。大胆に追求しましょう。(葛田崇志)

■英国国教会が全教会での日曜礼拝実施義務規定を廃止  
英国国教会は2月20日から23日までロンドンで開いた総会で、全教会に対し、日曜日の朝夕に礼拝を行うよう義務付けていた十七世紀以来の規定を正式に撤廃した。

■米合同メソジスト教会特別総会での決議  
米国プロテスタント主流派では『南部バプテスト連盟』に次ぐ規



海外トピックス

聖職者の減少に伴い、20教会を1人で担当せざるを得ないケースなども見られるようになり、「全ての教会で」日曜礼拝を毎週行うことは不可能になった。医師、教師、農業など兼業する牧師も増え、2002年に2091人だった兼業牧師は、2016年には3230人に達している。牧師は担当のうち、「少なくとも一つの教会で」日曜礼拝を行うこととなったが、聖職者不足という深刻

模の『合同メソジスト教会』(UMC)は、2月23日から26日まで、ミズーリ州セントルイスで特別総会を開催、激論の末、同性愛はキリスト教の教義に反するとの立場を公式に維持することを決めた。

特別総会最終日の26日には、同性愛に関する立場を地域支部や地域教会が決定することを許可する「一つの教会案」と、同性愛に反対する立場を維持し、規則のより厳格な執行を求める一方、LGBT(性的少数者)支持派の教会には「寛大な抜け道」を提示する「伝統案」の2案について投票が行われた。その結果、「伝統案」が438票対384票で可決され、「一つの教会案」は374票対449票で否決された。UMCは、2016年に開催した4年間の総会で、同性愛を含むLGBT問題に関してUMCの立場を分析することを目的とした特別委員会の設置を決定、決裂回避を狙いとする提案を検討した。

(平瀬聡樹)



燭台

老前整理の極意とは

■「老前整理」ということばに出会ったのは、ネットラジオで、NHKラジオ第二放送「ここをよむ」・「老前整理の極意」担当・坂岡洋子 を発見したときでした。担当者の造語とも思える「老前整理」とは、「老いる前に身辺を見直して、今後の生活にいらぬものを整理すること」と定義されます。■ラジオから録音した全12回を聴きながら、担当者が「老前整理」という課題を、実に正確に分析し対策を提案していることに驚きました。ちなみに担当者のホームページには、その放送で用いたテキスト内容が紹介されています。第1回「片づけに必要な3つの力、第2回「誰のための整理なのか、第3回「なぜものが増えるのか」行動経済学から考える、第4回「不合理な行動の理由をさぐる……からはじまり、最後の第12回「これからの暮らしのために」というテーマが掲げられています。

の辛さを短期間でしたが実感しました。このように突然の出来事で日常生活に支障を覚えることは自他ともにはつきりしますが、これが緩慢な現象となればまた違ってくる。■「老い」は、誰にでも確実に訪れてくる生活形態の変化です。■これを私の問題として思い巡らしました。「気力(決断力)」が必要。■「今、主があの日に語られたこの山道を、私に与えてください。……しかし主が私とともにいてくだされば、主が約束されたように、私は彼らを追いかけることができます。」カレブをこのように言わしめたのは、ローマ書四章にみるアブラハムの信仰でした。■「体力」が必要です。与えられた神の宮の善き管理者でありたいと願います。その保全に心を向けながら過ごしたいと願います。「汝の能力は汝が日々心に需むるところに循はん」(申命記三三・25、文語訳)。■「判断力(危機管理能力)」が必要です。これを記しながら、先日誕生日を迎えたばかりの私は大急ぎで運転免許証の有効期限を確認しました。「よかったです。来年の誕生日だった。」(國光勝美)

JHA 聖化フォーラム

# 聖化の瞬時性と漸進性 健全なバランスによって

王子教会 小林 佳

連性等についての質問もなされ、先生方もそれぞれの経験談から回答してくださいました。

その後、グループに分かれて講義で受けた恵みの分かち合いがなされました。その中で、それぞれの聖化に対する理解や経験等についても話し合わせ、励ましを受けた、と好評でした。特に今回の発題内容は私たちキリスト者にとつととても実質的な内容であり、このような集いが更に行われることを希望する声も多くありました。

このフォーラムは3年前から、毎年日本聖化協力会の評議員会に合せて年に1回開催されていますが、「教団・教会の枠を越えてきよめ・聖化に関する共通理解を持つ」ことを目的に行われていました。第1回目は各教団の神学校で教鞭をとっておられる先生方をお招きして、各神学校での聖化論に関するクラスを取り組みについて話していただき、共通理解を深めるための基礎作りがなされました。また第2回目は、坂本誠師(ナザレン下北沢教会)と工藤弘雄師(日本イエス香登教会)から義認と聖化に関する発題をしていただき、

その違いについてジョン・ウエスレーの見解等を交えながら、聖化を過程としてのみではなく瞬間的にも理解したことや、聖性が聖化の過程の中で死を待たずして獲得できるものであることが強調された。そして今回は聖化の瞬時性と漸進性のバランスに焦点が当てられて発題が為されましたが、聖化の恵みが持つ多様性について一つひとつ丁寧に取り組んでいこう、共通理解をもとう、という想いが強く込められたフォーラムでした。

今回のフォーラムの中で顕著だったことは、改めて瞬時的(転機的)な聖化の経験の重要性・必要性が再確認されたことでした。近年日本のきよめ派における聖化論は、聖書神学的な考察の発展によって「教会の聖化」という点に重きを置く潮流がありますが、今回のフォーラムではこれも大切にしつつ、その基礎となる「個人的な聖化の体験」についてもバランスよく語ることの必要性が再確認されました。

次回は「ホーリネスと人間性」をメインテーマとしています。

去る3月4日(月) 10時~12時、お茶の水クリスチャンセンター8階チャペルにおいて、日本聖化協力会(JHA)主催の第3回聖化フォーラムが行われました。講師は竿代照夫師(日本聖化協力会会長)と錦織寛師(ホーリネス東京中央教会)の二人で、メインテーマは「聖化の瞬時性と漸進性、両者の健全なバランス」でした。



青年課 これからの活動

## YS & YSB

### ここまで成長しました 教会の働きとして 主に用いられて

久留米教会 吉村和記

2008年、第1回全国YS(大学生以上対象)に参加していた20代の青年たちが、今、30代、40代になってYSBの働きをいっしょに盛り上げてきています。またある方々は伝道者となっておられたり、教会の大切な役割を担っておられたりと、主の働きのために活躍の場を拓けています。

少子化、献身者の減少、これらの課題と向き合って祈りつつ取り組んでいるのが青年部の働きだと思えます。私もその端に加わらせて頂いてから15年以上が経っていますが、決して暗い気持ちになりません。主が彼らを育て、ご自身のために用いて下さることを信じています。今年も左のように全国大会がもたれます。

◆YSBTC 8月11日(日) 13日(火) \*YS世代が神学院で聖書を学ぶ青年大会。◆とにキャン(中高生対象) 8月13日(火) 16日(金) ◆11月3日(日) 4日(月) YSBリトリート(30代、40代対象) ▼全国YSは2020年開催に向けて準備中です。

どうぞ、これらの働きのために祈り、青年たちをお送り下さい!

中学生課……とにキャン

## キャンプをとおして 互いを知り、 主を知る時に

仙台教会 細田恒太郎

わずか6回。キャンパーとして参加できる「とにキャン」の回数です。自分の信仰、生活、将来についてじっくりと向きあい、聖書という基盤の上で、自分の思いを分かち合うことができ、周りを気にせずのびのびと神様を賛美することができると。それは日常から隔絶された聖高原という環境と、全国から「教会」というつながりだけで、仲間が集まる特別な環境だから成り立っているのでしょうか。

そんな特別な時間をつくろうと今年も8月13日(火) 16日(金)に「とにキャン」が開催されます。講師は元KGGKの総主事、現在は玉川聖学院の学院長をされている安藤理恵子先生です。日々、現代の中高生と向き合い、彼らの悩みを聞き、聖書から生きる指針を彼らの言葉で語り続けている器です。ぜひ、関係する中高生たちを祈りのうちに励まして送り出して頂ければ感謝です。

併せて5月5日(日) 6日(月)にかけてスタットフトレーニングキャンプが横浜の神学院を会場に開催されます。青年方の信仰成長のためにぜひお祈りください。

巻頭言

すべての背後におられる神



世界宣教局 葛田 敬子

「それは、あなたがたが、非難されるところのない純真な者となり、曲がった邪悪な世代のただ中にあって傷のない神の子どもとなり、いのちのことはをしっかりと握り、彼らの間で世の光として輝く



広げた翼

Immanuel His Wings

Department of World Missions

世界宣教局

http://www.immanuel.or.jp/world/

ためです。」

年を越えて新しい年度に踏み入りました。受難週を含むこの月の歩みに、主の豊かな語りかけを待ち望みたいと思います。

「純真な者・傷のない神の子ども・世の光として輝く」ということを、ずいぶんハードルの高い目標だと感じられることはないでしょうか。私はこのようなみことばに触れて溜め息をつくようなことがよくありました。けれども、そのようになれるように頑張る努力しなさいと書かれているのはありません。むしろ鍵は前節の「すべてのことを、不平を言わずに、疑わずに行いなさい」というところにあるのではないのでしょうか。冒頭の聖句の「……ためです」

につながっていく言葉です。

この14節も、損得を計算し、効率を考え、自分の正義をものさしとして判断すれば、理不尽で困難な要求・命令のように感じられるかもしれません。しかし、その更に前節の「神は……あなたがたのうちに働いて」のみことばを前提として、「すべてのことを」主の言われるように生きてみようとするときに、冒頭の聖句につながっていくのではないのでしょうか。

私たちはしばしば、「何故こんなことが・こんな時に」と言いたくなる状況におつかります。何かの間違いでは、と思いたくなります。その中でも、すべてをご存知の御方がその背後におられることを信じて進むときに、自分では決して思いつかなかった、避けていたら絶対起こらなかった方法で、思いもかけない所に導かれた、という経験をお持ちでしょうか。楽しいことばかりではないかもしれませんが。しかし、私のような者が「純真な・傷のない・世の光」と造られていく不思議(奇跡)があるとすれば、私には思いもつかない「すべてのこと」を通してであろう、と思わざるを得ません。

この章の前半(6~8節)は、人の常識では理解できない、自ら進んで選ぶとたくないと思われる道を歩み通してくださった主の御足の跡を記しています。

私たちのうちに働いて、事を行わせてくださる方を信じて、期待をもって前進させて頂きましよう。



CAMBODIA

カンボジア

葛田緑乃\*2019年3月8日

「来て、見よ。主のみわざを。主は地で恐るべきことをなされた」「ハレルヤ、神の聖所で神をほめたたえよ。その大能の御業のゆえに神をほめたたえよ。」(詩篇四六篇8節、一五〇篇2節)

カンボジアの2月は一年中で一番過ごし易い時期にも関わらず、今はとても暑いとの報告です。こうした異常気象の中、カンボジアの宣教の御業は全能者の御手の中で静かに、粛々と進められております。この度のFCC本部と教育館、宣教師館の献堂は「神のみわざ」として領くしかない、現代の奇跡です。神様に全信的頼と服従をなす者が存在する処、奇跡とよぶ「神の御業」は当然の結果であることを今更のように領かされつつ「みわざの建物」を前にして頭を垂れ、全ての栄光を主にお返ししております。とともに背後で祈って下さり、犠牲の捧げ物をもって神様の協力者となり、持てるものを捧げ、祈りのために時間



を捧げて下さいます諸教会、信の方、主の御僕方のご支援の結果の賜物でもございますので、現地のFCCの伝道者、信仰者の方の喜びを主の御前で共に分かちあえることを願う者です。丁度、水がワインに変えられた日、その「奇跡の源」を知っていた「水を汲んだ僕達」の喜びに皆様も共に与って頂き主に賛美をお捧げしたいと思います。写真が送られて来ました。右の建物と建物の前の道路です。引き続きお祈りに覚えて頂きましたら幸いです。献堂式が無事に挙行できましたら(現時点では多分未完成のままの献堂式になるのではないかと、思います)6月号の報告に御期待下さい。戦いはこれからですので、救霊の働きにも奇跡的御霊のお働きを拝する事ができますように夜に日に御霊に導かれてお祈りのご支援を宜しくお願い申し上げます。



TAIWAN

台湾

平瀬義樹・光世\*2019年3月12日

「ここに少年が大麦のパンを五つと小さい魚を二匹持っています。主の御名を心より賛美します。いつも背後にありまして尊いお祈りと温かいご支援をありがとうございます。特に、台中教会の会堂移転のために、多くのお祈りをありがとうございます。」

「ここにあるのか、私たちの教会への思いは何なのかを思巡し、祈りの中に自問自答を繰り返しました。心の中に浮かんで消え、浮かんで消え、一日も早く決めたという、はやる気持ち、焦る思いと葛藤しつつ、主の御心を仰ぎ、主が道をつくられるとの賛美のコーラスに心を通わせました。そのように過ごしていくうちに、幾つかのことに気がつきました。主を仰ぎ、御心を求めているはずの自分の祈りが、本当の意味で御心を求めているのではなく、自分の思いだけを主に祈っていたこと。週ごとに、時には、一日に何度も入る新しい情報、目に見える状況や事象に、簡単に心を奪われ、一喜一憂している姿。下見の都度、「これが御心だ、もうこれで十分。なかなか決まらないから、もうこのぐらいで手を打とう。」と、妥協しようとする弱さ。

祈りの内容が変わり、純化されてきました。そんな中、実は、この報告を書いているのは、まさに年会の会期中の年会場なのですが、全国の諸先生方や信徒の愛兄弟姉妹が顔を合わせた都度、「どうになりましたか？祈っています。」「会堂のため、主の最善の御導きがあるように、教会の集会、宣教祈禱会や毎週の祈禱会で覚えていきます。」との生の声に触れ、力強い祈りの援軍の存在を目の当たりに、ここにも神さまの確かなみ守りと支えがあることを再確認し、祈られている者の幸い、大きな力と励ましを受けました。

巡回のため、お祈り感謝申し上げます。前回、1月半ばにJOMAの祈禱会にZOOMを使いながら参加を許されたことを書き落としてお詫言と追記報告致します。2月は、浜松、磐田、上田、富士見台、白鳥教会で報告の機会を頂きました。昨年2月9日は、テヌウエク病院で火事があった日でした。院長のB宣教師より、一年間のお祈りとサポートへの感謝のお手紙が同日に届きました。同時に長年課題であった、人工透析や化学療法設備等のある新しい建物の計画についても書いてありました。どうかお祈りから加わって下さい。



KENYA

ケニア・テヌウエク

蔦田就子\*2019年3月9日

ような数分の用事にも使って使い捨てている状況だそうです。贅沢な使い方が、一方で「ほかに何も無い」ことによる対応、ということも分かります。時々思うのですが、宣教地ではそういう、誤解されやすい、「変な贅沢」が発生する場合があります。作った包帯を見せてくださった教会に連絡し、今出来ている分を全部ミッションハウスに送っていただき航空便で送りました。約一週間後、「包帯が着きました！労してくださった婦人方にお伝えください。本当に素晴らしい事をしてくださっている事に、心から感謝致します！」と病院から感謝のメールが届きました(男性の方々も労して下さっていると聞いておりますので、同じ感謝を受けていただきます！と思います)。緊急ということで、普段は避けている航空便を使用したため高額の送料が掛かりましたが、丁度その頃、ある教会からはほぼ同額のケニアのための指定献金を頂き、必要が満たされた方々に心から感謝申し上げます。巡回先でも、「包帯送りました」「作り始めました」と声をかけていただき感謝です。時々、包帯のサイズや材質の事でご質問を頂くので、文書にまとめました(紙面上の関係でホームページにアップされます)他の宣教地と相違点があるかもしれません、参考にしてくださいましたら感謝です。健康も支えられています。



ZAMBIA

ザンビア

根廻恵子\*2019年3月1日

主の御名を賛美申し上げます。2月はまだ雨期中ですが雨の少ない月でした。主食のメイズ(とうもろこし)の実は水がないために多くの場所で干上がり、育っていないようです。クリニックでは2月も新人ナースの夜勤ヘルプで夜間の呼び出しや、スタッフ不足の中で働くことがありました。そのような状況で、年に2回行われる市からの監査があり、書類の準備や環境準備を通常の業務と並行して行い、忙しい日々が続きました。3月1日に監査が行われました。監査の人たちとともに監査項目に従って日々の業務内容の評価や、クリニックの環境状況を振り返りました。監査に来た人々から「ジェンボはとてもよくやっている。チームワークの良い。市のクリニックの中でダントツです。今度州レベルの監査があるのでジェンボに来るようにしようと考えています」と好評価をいただきました。ミッションクリニックとして

神様の栄光がクリニックの働きを通して現されていることに心より感謝し、御名を崇めました。2月23日の土曜日は、スタッフ不足の補充のためにクリニックで働いていました。外来に多くの患者がおり、お産もあるような忙しい日でした。このお産は順調に進んだのですが、産後出血が止まらず、緊急処置をとりました。一度出血はおさまったのですが、再度出血し、搬送をしました。救急車が来るまでの応急処置をとったのですが、この応急処置は私にとつて2回目の経験でやや手間がかかる部分もありましたが、無事に応急処置を終え出血が止まりました。救急車は1時間後に到着したのですが、患者は大量出血のために一度気を失いかけ、急遽ショックの処置を追加で行いました。約1時間かけて60キロ先の病院に搬送できたようですが、道の悪い道中、患者は2回ほど気を失い、また病院に着いてからも気を失い、病院でも緊急対応をしたことを聞き留め、回復し、母子とも大丈夫であることを聞きました。このケースは母親の命を失っていたかもしれないケースでした。このことを通して本当に神様が上からの知恵と力を与えてくださり、守ってくださったと感じました。そして、本当に日ごろ皆様が祈ってくださっている祈りによって支えられていると感じました。感謝いたします。■



ZAMBIA

ザンビア

富澤 香\*2019年3月2日

雨季にも関わらず雨が降らず、主食のトウモロコシが枯れ始めています。お祈りください。2月末、訪問者がありました。僅かな休暇にザンビアまで来て頂き、一人ではどうしても片付けられない(重いものが一人では動かせない)ところを助けて頂きとても感謝でした。本当に多くの方々にお祈り頂きながら支えられていることを覚えて感謝でいっぱいです。また訪問者が来られている時にはインターネットも繋がります。かなり、連絡も助けられ、感謝でした。訪問団の準備も少しずつ進めています。信じられないかもしれませんが、去年、注文したマットレスが、未だにこないという状態です。お祈りください。良き受け入れ態勢を整えることができますように。クリニックの仕事にはまだ入っていませんが、少しずつでも入れるようにと願いつつ、祈りつつの日々です。■

- 会計報告2月分  
宣教献金 一、二七四、五八九円  
月平均 一、五六五、四六三円
- お祈りの課題  
台湾(平瀬)  
◆会堂が見つかり、正式契約が終わりしました。今後の歩みのためにお祈りください。新会堂への微改修と移転のため、少しずつ随時引越、移行の予定です  
◆新しい場所での働き・変化の一致して進んでいけるように  
◆子どもたちの学びと将来の導きのため(明里は高三後期、勝大は中三。二人とも受験生です。)  
◆複雑な極東アジアの国際情勢の中、台湾の政治や経済、教育、治安の安定を見るように  
ザンビア(富澤)  
◆訪問団の準備が十分にできますように  
◆クリニックに少しでも早く順応できますように  
◆雨が降りますように  
ザンビア(根廻)  
◆クリニックがさらに神様の栄光のために用いられるように  
◆スタッフの心を一つにして働けるように  
◆生活が守られるように  
◆8月の訪問団の準備のためカンボジア(眞田緑乃)  
◆求道中のたましいが救いに導かれるように  
◆米国にフアローで5月から3か月帰国されるマーク宣教教師の奉仕と働きが祝され救霊の実を結ぶこと

- とができるように  
◆4月11日の献堂式に主の御臨在が明らかに証しされるように  
ケニア(眞田就子)  
◆2月も巡回奉仕が守られ、包帯も与えられた感謝  
◆巡回の奉仕が祝福されるように  
◆テヌウエク病院の働き人(ルカ一〇章二節)特に麻醉科と検査室の必要が満たされるように  
フィリピン(豊田)  
◆学生たちがサタンからの攻撃から守られ訓練と学びに励むことができるように  
◆聖書大学での神学教育(聖書解釈)の奉仕のため  
◆事故、事件、怪我、過ち、災害から家族が守られますように。子どもたちの学びのため  
香港(鹿島)  
◆イースターへ向けての歩み中で復活の恵みに活かされるように  
◆10周年記念誌の準備と宣教の働きに用いられるように  
◆香港と広州を往復する生活が支えられ、始められた聖研祈禱会が進められるように  
グローバルユースミニストリー(眞田康毅・由理)  
◆教会のために良い場所、良い華人伝道者が備えられると共に、スタッフ・同労者が心を一つにして前進できるように  
◆隣国の特別なリクエストに取り組み知恵と力が与えられるように  
◆建設中のグロリアアテインセンターが予定通りに完成し、GYMの活動が軌道に乗るように

# 聖宣神学院報



## Immanuel Bible Training College

### 靈的感覚、靈的経験

院長 ● 河村 従彦

「主が油注がれた方に」

(第一サムエル二六・11)

ダビデの生涯は、人格形成と信仰の成長についてのヒント満載です。油注ぎの場面で親に無視された悲しい少年時代、自由と権力を手にしたときにバテ・シエバ事件で見せた男性アイデンティティーの未熟さ、その未熟さを隠すための完全計画殺人、これがダビデです。ところが、サウルを仕留めることができる場面で「主が油注がれた方に手をくだせない」などと殊勝なことを口にします。どうもイメージの中で統合できません。それで改めて考えました。ダビ

デはいつ神さまに出会ったのだろう。ダビデが初めて神さまの前で自分のありようを問うたのは、バテ・シエバ事件だったのかもしれない。ダビデの生涯を辿ってみると、バテ・シエバ事件以前に神さまの前に「責任ある自己」として立った形跡はおそらくなく、神さまに出会っていなくても、そのような立派なことが言える器用さをダビデは持っていたように思われるのです。これは解釈ですが、信仰を考えるヒントにはなりません。門前の小僧という日本語があります。キリスト教の環境の中で人格形成をすると、立ち振る舞いは

身につきます。ここではそれを靈的感覚と呼びます。他方、自分が神さまの前に責任ある自己として立つことを靈的経験と呼びます。奉仕の世界で最後に意味を持つのは靈的感覚ではなく靈的経験です。その意味で、神さまは公平だと思います。神の国が、摂理的な人格形成環境で決まる世界ならば、これほど不公平なことはありません。自分で選べないからです。しかしイエスさまに出会ったシンブルな体験が意味があるならば、すべての人が主の前に横一列です。皮肉にも、自分に取り込んだことでわかったと思いついてしまった靈的感覚が原因で、自分に正直になれないこともあると感じて来ました。「身につけたモノ」と「出会ったもの」をわけてみる、そうすると、グッと恵みに深められるような気がします。



第66期卒業生です 左は金成星美姉 右は大谷のぞみ姉

### 神学エッセー

## 聖霊とクリスチャン生活 (その1) 聖霊と救い



梅田 昇

んし、罪を認めることが難しいのです。むしろ自己の正しさを主張し、他人の非を叱責するのは多くの人の姿です。ヨハネは「その方が来ると、罪について、義について、さばきについて世の誤りを明らかになさいます」と聖霊の働きを示しています。聖霊は過去に私たちが犯した罪を思い起こさせ、主に対する罪深さを示し、認罪、罪責感を与えます。

### 3 聖霊による生まれ変わり

聖霊なるお方は、贖いのために十字架にかけられた主キリストを信じる力を与えて下さいます。パウロは「聖霊によるのでなければ誰も『イエスは主です』と言うことはできません」(1コリント一二・3)と述べています。キリストの十字架が単に歴史的な事実であるだけでなく、個人的に十字架を信じるために聖霊は働かれます。

### 4 聖霊による証し

信仰によって救われた時に、聖霊は生まれ変わったという領き、確信を与えます。聖霊の証しと呼ばれます。パウロは「御霊ご自身が、私たちの霊とともに私たちが神の子ともであることを証してください」(ローマ八・16)と述べています。

信仰者は、聖霊の存在と働きをよく理解し、聖霊に導かれて生活することが大切です。今回は聖霊とクリスチャンの成長について論じることに致します。

1 聖霊による先行的恵み  
私たちが救われる以前にも聖霊は友人や聖書と牧師などを用いて救いへと引き寄せます。つまり、聖霊は私たちが救われる前から働きかけておられ、これを先行的恵みと言います。

2 聖霊による認罪  
すべての人は主の前に罪人ですが、多くの人は罪を理解できません

◆インタビュー実習を前にして

インタビュー・オヤジの恵み

正規コース 竹内俊之

『わがたましいよ、主をほめたたえよ。主が良くしてくださったことを何一つ忘れるな。』

(詩篇一〇三篇2節)

メタボ&猫背でお馴染み、愛称「カールおじさん」こと『不思議オヤジとしちん』も、この4月より2年半の神学院教室での学びを経て、1年間インタビューとして兵庫県の姫路教会で学ばせて頂ける事になりました。感謝致します。

今回、久しぶりに生地・川崎市高津から離れますが、不安より期待と希望が優っています。それは①父の生地・島根県松江と母の生地・小豆島の両方に近づくから。②関西人の話し方がライク。③姫路城に近い(城好き!)等々。思えば9年前の今月に初めて教会堂(高津教会)に足を踏み入れ以来、数々の神さまからの「恵み」が私のような超遅咲きクリスチャンにも豊かに注がれていたことを思います。その9年前の再婚相手である梨瑛は愛らしいのに敬虔なクリスチャンでした。結婚条件はクリスチャン、もしくは求道者! たま

たまその時、ギデオンの聖書を読んでいた私は瞬時に「クリスチャンになる!宣言」。梨瑛がクリスチャンと知らなかった私。私が聖書を読んでいると知らなかった梨瑛。これって奇跡! 酒・タバコ。自己中だった私と金髪・つけまツゲの梨瑛という不思議カップルを受け容れてくださった恵み! そして高津での幸いな結婚式から4年後、私を藤本先生や高津教会の皆様と共に、真の信仰に導いてくれた梨瑛は同年2月8日、大雪で真っ白な朝、予告無く召されました。主は与え、主は取られる? フザケンナ! でした。しかし、梨瑛が愛した、良いことしかなさらないイエスさまの召命は私に降り、神学生となった奇跡と恵み。梨瑛? 君は僕の『一粒の麦』だったの? .....

◆インタビュー実習を前にして

神様、私もまかせてください

修了者コース 中尾敬一

年会に出席してきました。年会は幼少期から欠かさず出席してきましたが、しばらく超教派宣教団体で働き、その後は留学していたので7年浦島でした。献金の時のことです。係だった私や先生方が等間隔の位置に付



き、賛美の折返して同時に動き出す姿を見て妻がふふっと笑いました。「なんか軍隊みたいね。」私も「そうかもね」と頬を緩めました。日本文化らしい情景なのか、はたまたインマヌエルの伝統なのか、以前は年会の雰囲気馴染んでいた事が、私たちにはそこだけ浮いて見えたのでした。聖会Ⅱのメッセージでは導入部で「家族」という言葉が出てきました。議事会では信徒局やBTC後援会の責任者が違和感なく報告に立っておられました。お子さんを抱っこする先生方(父親)とそれを見てニコニコ話しかけられる先生方の姿も、右も左も上下も気兼ねせず席を取り食事を楽しむ時間も。これらは何年もかけて徐々に変わってきたのでしょうか、7年の空白が変化を際立たせてくれたのだと思います。

教会がどんどん良くなっている。これは神様の愛と情熱、神様の働き、そしてそこに献身して加わっていかれた先輩方の働きの結実なものではないかと思えました。そこに私も加えていただけるというのですから、神様の懐の深さに圧倒されます。任命式ではインタビュー生も実習先が言及されました。私たち一家は武蔵村山田園教会で実習をさせていただくことになりました。緊張していますが、いつも神様が教会のために働いてくださるので大丈夫だと思います。神様の働きにまかせていただける恵みを経験してきたと思います。お祈りに感謝しつつ。 ◆新年度の学びに向かう

断捨離

日々新しくされる

聴講生 大村真実

温かく見守り、お祈りして下さっている皆様ありがとうございます。 現在神さまにあつて与えられている思いは新年度も聴講生として学びを続けさせて頂くことです。 よろしくお祈り致します。 神さまのご計画に喜んで且つ、すぐに従えるほどの神さまへの信頼・信仰が欲しいものです。しか

し、神さまへの信頼・信仰が無いことを日々思い知らされます。神さまに失礼ですが、私は神さまを試し、信頼できるのか評価しようとしているのです。神さまは私の無礼な振舞いを怒らず、様々なことを通して愛を示し、神さまに信頼できるような経験を与えて下さっています。 昨年の12月頃に断捨離をしようと思い始めました。その思いは消えずに日を追うごとに強くなり、いつ断捨離を始めようかと焦る思いも出てきました。神の時を待っている、1月末のある日突然に部屋を片付ける必要が出てきたのです。目に見える断捨離がスタートしました。しかし、なかなか進みません。捨てられない理由に一つひとつ向き合いながら、神さまに「あなたには、わたし以外に、ほかの神(こだわり)があつてはならない。」と励まされ、握っているものを手放せるようにと助けを求めながら断捨離を継続していきます。断捨離を通して、神さま以上に大事にしているものを手放し、神さまが良い物で満たし続けて下さる方だと日々体験中です。しかし、疑ってしまう日々の方が多いです。 新年度も神さまへの信頼度が上昇する経験を神さまが与え続けて下さることを期待しています。新年度が楽しみです。



### 私の神学生時代 任命式で任地がない!?

17期生 ● 姫井雅夫



大学2年の時、教室で持たれていたミセス久芳の英語聖書会に参加した。2か月後、久芳師の個人伝道で救いの恵みに預かった。

その年の秋、OCCでの海外宣教報告会に出席した。司会は葛田二雄師だった。台湾からの松本宣教師の講演の後、司会者が招きの時を導いた。「あと一人います」と言われ、私かな?と思っ手挙げた。司会者の祈祷でその会合は終わった。

この決断を久芳師に伝えた。すると「煽られるとすぐその気になる人がいるのよね」と言われ、「大卒卒業までよく祈りなさい」と忠告された。マクラケン宣教師の勧めでアメリカの神学校に行くことになった。ところが久芳師は「神学は日本語で学び、それから留学してもよい」と指導してくださった。というわけで、大卒卒業と同時に聖宣神学院に入学した。ギターを抱えて寮に行って響きをかっ

本に派遣されてきたボーマン師と会った。このことが神学院卒業後の進路を決定することに繋がった。後半は札幌で実習した。

2年目は宮崎で実習をした。当時、宮崎におられた高梨師に言われて丘の上に建ち並ぶ高級住宅地で路傍伝道をした。ラップとアルトフォンで演奏しながら住宅街を伝道した。演奏が上手でなかった。「この住宅地区に住んでいる人々は教養のある人々なので、君たちの演奏では教会に来なくなるから止めてくれ」と言われた。

3年目は佐賀での実習だった。当時、IGMでは「全県攻略」との標語で、すべての県にIGMの教会を生み出そうとしていた。数名の神学生と一緒に教会がなかった佐賀に遣わされた。古い日本家で生活しながら伝道を開始した。すでに天に召された釣穂兄もチームの一員だった。彼は古い家屋の屋根にどでかい十字架を立てた。食事は当番制だった。それまで私は料理をしたことがなかった。とにかくご飯は炊けた。でもおかずを作ることが出来なかった。鍋で水を沸騰させ、キャベツをちぎって投げ込んだ。

教団の年會が持たれ、締め括りの任命式で任地が発表された。全部の任命が発表されたが私の名は呼ばれなかった。最後に「岩国・姫井雅夫」と呼ばれた。そこにボーマン師の教会があった。彼の副牧として7年務め、3つの教会を開拓した。

### 同窓生の近況

43期生  
久我山宣教会 ● 河野美紀



初めて教会学校に導かれたのが小学校入学の頃でした。12歳で新生、24歳で献身。卒業後、母教会に副牧として遣わされ、24年になりました。「自分に分別がある」と信じている愚か」を神様に直付けて教えられた年月でありました。

もがく私に対し、主はいつも「大丈夫」と仰いました。「神様のお心の中にある私」こそ本当の自分である、と神様は突き止めて下さいました。

近くに住む両親は健在で、教会員である妹一家が実家に入入りしてくれていることは大きな助けとなつています。教会では、福音宣証のために全てを献げ戦って来られた御器方の信仰の遺産の上に今あることを覚え、私自身、ただ召しに忠実であらせていただきたいと願っております。4年生の夏期実習の前に与えられたみことばが私の伝道者生涯においてくさびのように心に打ち込まれています。

「あなたは終わりまで歩み、休みに入れ。あなたは時の終わりに、あなたの割り当ての地に立つ。」

(ダニエル二・13)

### 神学院スタッフ…恵みの想起

#### 寮生活と初代院長から

#### 学んだこと ①

図書館司書 三森春生

私がBTCに入学を許されたのは1952年で、3年後に4期生として卒業してから64年になります。4年足らずの教会生活はあったものの、当時はまだ聖書について、教会について、キリスト教文化についてほとんど無知のまま寮生活に入りました。福音主義聖書信仰に立ち敬虔主義的な傾向が強いキリスト者学生会(KGK)の活動にかかわっていたことが幸いして、毎日の「密室」(デボーション、静思の時)も「聖書の学び」も「伝道」(伝道集会や個人伝道)もある程度の体験と理解はあった(つもりでした!)ので、あまり戸惑いもなく、また戦前・戦中の体制下に育った世代ですから、寮生活の厳しさも、それほどの違和感はありませんでした。

### 学苑だより



- 5日(金)に入学式・始業礼拝が行われ、2名をお迎えしました。
- ベテルハウスについてのお問い合わせは学務課・馬場姉まで。
- 旧家族寮とオルガン棟跡地に整備する駐車場は、間もなく着工予定です。
- 本館屋根補修は、昨年の災害の影響で業者の折り合いがつかず、少し工期が遅れます。
- 神学院祈り会は9日(火)です。後援会から
- 創立70周年記念感謝献金は恵みに対して感謝を表したく、それぞれお加わりください。
- 世話人更新の時期です。引き続きよろしく願ひ致します。
- 西潟証兄は神学院での聴講を終了し、ウェスレー・ビブリカル・セミナーで学ぶことになりました。インマヌエルの牧師になることを目指して行くとのことですので、引き続きお祈りください。

### サポーターズ

尊いお掛けものに心より感謝申し上げます。2月の会計報告をさせていただきます。

2月分支援実状  
〔今年度毎月献金目標〕  
¥2,000,000

教会員による「神学院サポート献金」  
¥709,550  
教会団体による「神学院献金」  
¥412,250  
合計 ¥1,121,800  
その他の献金(一時・特別)  
¥111,750

・振替：00230-0-10138

# 公報

## 本部通達

「しかし、わたしは今日も明日も、その次の日も進んで行かなければならない。預言者がエルサレム以外のところで死ぬことはあり得ないのだ。」(ルカ一三章33節)  
 第74次教団年会を越えて、新しい年度の営みに入りました。今月は受難週・イースターを含む月です。十字架と復活の主のご同行を仰ぎ信じつつ、ともに前進させていただきます。

### 本部

年会において、以下の方々に教職、教職試験、定住伝道師の辞令が交付されました。(括弧内は今年会の任命地)  
 ▼教職辞令  
 齊藤 義信師(館山教会)  
 久保 光彦師(和歌山教会)  
 ▼教職試験辞令  
 山本 和雄師(磐田教会)  
 山本 良子師(磐田教会)  
 ▼伝道師辞令  
 大谷のぞみ師(白鳥教会)

〈引退について〉  
 年会において、お二人の先生の引退が発表されました。貴いご奉仕に心から感謝し、また今後のご生涯に祝福をお祈りしましょう。  
 岩上 輝雄師  
 津村貴美子師  
 国内教会局  
 〈春の教区会日程〉

8日(月) 沖繩  
 8日(月) 〃9日(火) 中京・南九州

9日(火) 北関東

15日(月) 東関東

15日(月) 〃16日(火) 北九州

16日(火) 近畿

16日(月) 〃17日(火) 東北

22日(月) 東京・神奈川

22日(月) 〃23日(火) 北越・中国・四国

23日(火) 静岡

〈教区関連〉

16日(火) 東関東教区牧師研修会  
 〈月例支援金について〉

今年度の教会月例支援金の申請は今月末が締切となっております。

申請を予定している教会は申請書を国内教会局までご提出ください。

### 世界宣教局

台湾の台中教会(平瀬義樹、光世宣教師)では、教会が移転します。牧師住居はまだ精査中です。

### 教会住所

40360 台中市西區台湾大道2段545号 企業大廈8F・3

【電話及びFAX】 変更なし

【連絡メール】

igmtaiwan234@gmail.com

▽葛田緑乃宣教師が協力しておられる、カンボジアKCC(カンボジア・クリスチャン・コミュニティ)では今月9日から局長が訪問し、11日に本部、宣教師館の献堂式を行う予定です。

▽2019年、宣教師の帰国報告予定

根廻恵子宣教師(ザンビア)の

帰国は10月初めとなり、巡回報告は2019年11月からです。

▽2019年、8月27日〃9月5日のザンビア宣教訪問団の参加者募集は4月28日が締切です。関心のある方は局(担当)神栖教会・葛田敬子師)までご連絡ください。

〈IWF関係〉

▽ロビン・ホワイト宣教師は今月、結婚式を挙げられます。祝福を祈りましょう。

▽2019年、宣教師たちの予定は以下の通りです。

\*再赴任 ホーリー宣教師

2019年10月頃

\*帰国報告 ロビン宣教師

2019年6月頃(5月まで奉仕が可能)

▽IWF基金からの宣教師を招くための支援金申請、教会室の増築・改築のための融資申請は5月28日のIWF理事会までに梅田登志枝師までお問い合わせください。

### 教育局

〈信徒伝道者認定〉

年会で、以下の方々の信徒伝道者資格の更新・新規認定がなされました。

(更新)

池田 光重兄(千葉教会)

額田 昭 兄(船橋教会)

斎藤 純雄兄(深川教会)

田中美枝子姉(中目黒教会)

中山 朝雄兄(中目黒教会)

山口 松子姉(中目黒教会)

竿代 丈夫兄(立川教会)

小原 一夫兄(浜松教会)

山田由紀子姉(四日市教会)

阿部 妙子姉(別府教会)

山城 明 兄(那覇教会)

(新規) 前田 敦 兄(武蔵村山教会)

渡辺 千佳姉(浜田教会)

大土井智子姉(広島教会)

《青年課》

▽Camp2019(関西ユースキャンプ)

29日(月) 〃5月1日(水)

会場Ⅱ神戸 六甲少年自然の家

講師Ⅱ細田恒太郎師

▽「とにキャン」スタッフ・トレーニング・キャンプ

5月5日(日) 〃6日(月)

会場Ⅱ聖宣神学院

参加費Ⅱ3,500円(交通費補助あり)

申込締切Ⅱ4月11日(日)

▽1日(月) 女性部運営委員会

▽29日(月) 関東四教区信徒大会

### 聖宣神学院

▽春の入学審査では以下の2名が合格されました。

・石川順兄(東京フリー・メソジスト桜ヶ丘教会出身、正規コース)

・田中利道兄(イムマヌエル藤枝教会出身、短期コース)

▽入学式・始業礼拝のご案内

4月5日(金) 午前10時30分からです。

▽インターン実習教会のお知らせ

・中尾敬一兄(武蔵村山教会)

・竹内俊之兄(姫路教会)

・秋田郁美姉(日本フリーメソジスト町田福音キリスト教会)

▽教会実習は7日(日)からです。

▽BTC後援会からのお知らせ

・創立70周年記念感謝献金は恵みに対して感謝を表したく、可能な範囲でお加わりください。

・「世話人」の更新時期です。引き続きご協力をお願い致します。

▽ペテルハウスのお問い合わせ

利用申込は学務課の馬場姉まで。

▽神学院祈り会 9日(火) 午後6時から本部会議室で行います。担当は田中進先生です。

■eラーニング新講座のご案内

「GoodNewsを家庭にも」

講師Ⅱ水谷潔師(カナ・フェロシツプ講師)

受付中Ⅱ<http://grace-online.jp>

\*Webフォームからのみ申込、問い合わせとなります。

受講期間Ⅱ5月7日〃6月25日

受講料Ⅱ8週間で一万円(信徒は牧師承認が必要)。IGM牧師、聖宣神学院生、信徒伝道者は補助の申請ができます。\*第6回カナ・フェロシツプへの参加費が無料に。

# 消息報告



▼休職中であった池田優美師は、今次年会をもって退職されました。今後の歩みに祝福をお祈りします。

▼内山範子師(名古屋教会)のお母様、土屋守代姉(上田教会員)が、去る3月1日、88年余の地上生涯を全うして召天されました。ご遺族に主の慰めをお祈り致します。教報PDFパスワードⅡ6847